

公益財団法人 海外子女教育振興財団

AG5 事務局 御中

2022 年度 AG5 報告書

1. 報告者	
(1) 学校名	シンガポール日本人学校小学部クレメンティ校
(2) 氏名	寺内 健
2. 実施体制	
各学年部から推進委員1名を選出し、研究主任を中心とした研究推進委員会を組織し、研究に関する事項の起案を行った。職員全員参加の全体会にて研究に関する事項の検討、また研究の進行状況の報告を行った。研究実践に関しては、全体会での確認事項を基に、各学年部で研究計画を作成し、実践、成果と課題のまとめを行った。COVID-19の影響で一堂に会して参観をする研究授業を行えない現状がある中、資料や少人数グループ討議を基にした「実践共有」「実践報告」を定期的に行った。一連の研究の流れの中で、AG5 担当がアドバイザーとして適宜研究に関わった。	
3. テーマ	
主体的に学び、よりよい考えを生み出す児童の育成を目指して ～SDGsを踏まえた個別最適化学習～	
4. 目的と概要	
1 本研究で目指す児童像 世界を巡る情勢は現在加速度的に進歩を続けている。近年 ICT の発展がめまぐるしく、AI（人工知能）が社会を形成する一端を担い、重要な役割を果たしていく時代が近い将来やってくることが予想される。しかし、そのような発展の一方で環境問題・貧困問題等、地球規模での問題も山積していることも現実である。児童たちがこれから迎えようとしている時代が、どんなものになっているのかは、非常に予測が難しい。そんな中、児童たちが今後未知なる問題に直面したとき、その問題の本質を的確に捉え、最適な解決策を考え、実行し、よりよい時代を作り上げていく力が必要となってくる。今まさにそのような力を児童たちに付けていくことが、教育の責務の一つだと考える。2018年4月より施行されている「シンガポール日本人学校グローバル人材育成大綱」では、本校のグローバル人材像として、「世界中どこにおいてもそこで共に生き、持続可能な未来社会実現に向けて活躍することができる日本人」を掲げている。そこでは、目指す児童生徒の姿の1つに、「持続可能な未来社会を実現するための探究力（洞察力、思考力、判断力、表現力）を身に付ける児童生徒」が明記されている。今年度は、本研究3年目ということで、副主題である「SDGs」の要素を授業づくりに取り入れ、本校のグローバル人材像に近づけるための研究を進めてきた。 2 本研究テーマ設定の趣旨と方向性 以上を受けてシンガポール日本人学校では、総合的な学習の時間をチャンギ校・クレメンティ校では「探究科基礎」、中学部では「探究科」と称して、シンガポールという地の利を生かした現地理理解教育を中心に、より探究的な学習を推進している。本校においては一昨年度より、「持続可能な社会のための教育（ESD）」に取り組んでいる。また、「国際バカロレア（IB）」の要素を取り入れた実践に着手してきた。 また、昨年度より、世界的な COVID-19 の影響により、シンガポール国内でロックダウンが実施され、オンラインによる在宅学習を余儀なくされた。その中では、学校から配付されたクロームブックや家庭用 iPad を用いて、Google meet を活用した双方向型の授業が模索されてきた。児童の通常登校が開始された後も、学校現場を取り巻く環境がロックダウン以前の姿に戻る目途は立っておらず、ソーシャルディスタンスを考慮しない従来型の授業形態、学校行事、校外学習の実	

施は困難な状況は昨年度と同様である。そこで、前年度推進してきた、オンラインによる在宅学習も充実させてきた。

本年度本校の校内研究では、「SDGs」の要素を取り入れ、個人、集団として、より自分たちの社会に働きかける意識をもって生活することができるよう各学年で学習を展開してきた。世界の一員として、個人、集団として何ができるかを考え、行動できるよう実践を行うこととした。

3 本研究で目指す授業実践

a. 地理的特性を生かした探究的な学習

各学年、SDGsの要素を取り入れて実践を行った。自分なりの学習過程で学習を展開できるよう、教師は個別最適化学習を取り入れ、個や集団で設定した課題解決を支援してきた。その結果、成果物にも、個の課題設定が最適であり、いかに充実した学習であったかが表れた取組が多くあった。シンガポールという地理的・文化的に特殊な環境を有効に活用しながら、「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げる目標に向かうための活動や思考の場面を意識した授業実践を目指していく。

b. IBの要素を取り入れた深まりのある学び

本校では、「IBの要素」を以下の2点を取り入れた探究的な学びの実践を目指していく。

- ① セントラルアイデアを中心に据えたカリキュラム作り(表1)。
- ② キーコンセプトを活用した授業づくり(表2)。

セントラルアイデアとは、「児童に身に付けさせたい価値観」のことをいう。多くの場合、教師が一言で言い切れる短文として表され、児童にとっては馴染みのないもの、抽象性が高く、一度見たり聞いたりしただけでは理解が難しいものとなる。このセントラルアイデアを基に、児童は探究的な学びをしながら自分なりの納得解を導き出し、価値観を形成していく。さらに、学校での授業やオンラインによる在宅学習など、探究科基礎の時間以外の場面でも取り入れ、定期的に想起させる。

表1 本校における学年別セントラルアイデア

学年	セントラルアイデア
3	人々のおもいがまちをつくっていく
4	よりよい暮らしと環境は影響し合っている
5	科学技術の進歩によって私たちの生活は変化し続けている
6	真実に向き合う力がわたしたちに平和をもたらす

表2 IBにおけるキーコンセプトと本校における導入学年

	キーコンセプト	和訳	低学年	中学年	高学年
1	Causation	原因・理由	◎	○	○
2	Change	変化・変容	◎	○	○
3	Connection	関連・影響	◎	○	○
4	Form	特徴・構造	○	◎	○
5	Function	機能・役割	○	◎	○
6	Perspective	視点・視野	○	○	◎
7	Responsibility	主体・責任	○	○	◎
8	Reflection	評価・省察	○	○	◎

◎導入 ○継続

キーコンセプトとは、「物事を見る視点」のことをいい、1年間の授業計画の中で、単元や授業を選びながら明示される。また、セントラルアイデアにせまる探究的な学びを深めるために、1つの事象を多角的に捉え、分析する際に活用していくものである。教師は8種類のキーコンセプトの中から、単元や授業ごとに1つ、もしくは複数選定し、学習計画を立てる。授業中、児童は度々明示されるキーコンセプトを意識しながらグローバルな視点に立って学習する。さらに、キーコンセプトは思考したり表現したりする際の基準となる。セントラルアイデアと同様、教科の枠に囚われずに扱い、授業以外の活動や校内掲示にも導入することで、定期的に想起させる。

c. タブレット端末による学習の充実と効果

今年度購入させていただいたタブレット端末を活用し、各学年で様々な取組を行った。グローバル人材として、課題解決に向かって取り組む学習過程を支えるものとして活用した。

d. 個別最適化学習に効果的な振り返りカード（自己評価）の作成と自己の学びを価値づけるための書籍の活用

より自分たちの社会に働きかける意識をもって生活できるようになってきたか、子ども自身が自己を振り返り、自己の変容を実感することができるよう、振り返りカードの作成を各学年で取り組んだ。また、自己の学びを価値づけるために書籍を活用し、自分たちが取り組んできた学びを客観的に見つめなおすために活用した。

豊かな国際性を身に付けた子どもの育成

- ・世界中どこにおいてもそこで共に生き、持続可能な未来社会実現に向けて活躍することができる日本人。
- ・持続可能な未来社会を実現するための探究力（洞察力、思考力、判断力、表現力）を身に付ける児童生徒。

主体的に学び、よりよい考えを生み出す児童の育成

未知なる問題に直面したとき、その問題の本質を的確に捉え、最適な解決策を考え、実行し、よりよい時代を作り上げていく力。

研究主題

ESD の学習

- ・探究科基礎・生活科等で、自分たちが住む地域、国内や周辺国、世界が抱えている問題をテーマに、「目的意識→論理的思考・学び」のプロセスを踏んだ課題解決型学習。
- ・「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げる目標を取り入れ、目標に向かうための活動や思考の場面を意識した授業実践。

キーコンセプト

Causation, Change, Connection,
Form, Function, Perspective,

IB の見方 ・考え方

セントラルアイディア

人々のおもいがまちをつくっていく。
よりよい暮らしと環境は影響し合っている。科学技術の進歩によって私たちの生活は変化し続けている。真実に向き合う力がわたしたちに平和をもたらす。

オンラインによる在宅学習

- ・児童一人ひとりの興味や能力に応じた探究的な学習。
- ・教師と児童、もしくは児童同士が学び合える双方向型の学習。

地域の特徴

シンガポールの
経済発展・計画経済

多国籍文化

COVID-19

強い政治力

自由と統
制

図1 本校校内研究構想図

5. 今年度実施した取組み（※研究会や出張等は日程も含め記載してください）

4月14日(水) 第1回校内研究推進委員会(14:00~14:30)

【議題】2021年度校内研推進委員会について

2021年度におけるクレメンティ校の研究主題と実施計画について

4月16日(金) 臨時校内研究推進委員会(15:30~16:30)

【議題】2021年度校内研究の研究副主題および研究計画について

ESDに関わる年間学習指導計画について

セントラルアイディアとキーコンセプトについて

6年部の校内研究の方向性について

5月3日(月) 第1回校内研究会全体会(14:50~15:50)

- 【議題】2021 年度におけるクレメンティ校の研究主題と実施計画について
- 5 月 4 日(火) 第 2 回校内研究推進委員会(15:40～16:20)
- 【議題】授業実践の構想発表について
経過観察用の児童選定について
探究科の学習について
- 5 月 17 日(月) 職員打ち合わせ
- 【連絡】経過観察用の児童選定について
第 2 回全体会について
- 6 月 21 日(月) 職員打ち合わせ(オンライン在宅学習実施のため)
- 【連絡】校内研究年間計画の改訂について
第 2 回全体会について
漢字・計算オリンピックについて
- 8 月 27 日(金) 第 2 回校内研究会全体会(9:00～9:50)
- 【議題】2021 年度校内研究における授業実践の構想発表
《1 年部》单元「じぶんでできるよ」(生活科)
《2 年部》单元「ときどきわくわくまちたんけん」
「もっとなかよしまちたんけん」(生活科)
《3 年部》单元「しあわせに住みつづけられるまちづくり」(探究科基礎)
《4 年部》单元「救え！シンガポールの危機」(探究科基礎)
《5 年部》单元「We are ambassadors in Singapore!」(探究科基礎)

《6 年部》单元「自分のできる SDGs を見つけよう～世界の一員として～」
(探究科基礎)
《特別支援部》
スター1(4 年) 单元「じぶんの おみせを ひらこう!」(生活単元学習)
スター2(2 年) 单元「うごく うごく わたしのおもちゃ」(生活科)
サンシャイン(2 年) 单元「生きもの なかよし 大作せん」(生活科)
- 9 月 7 日(火) 第 3 回校内研究推進委員会(15:40～16:10)
- 【議題】中間発表について
SDGs を踏まえた個別最適化学習の評価方法について
- 9 月 16 日(木) 職員打ち合わせ
- 【連絡】授業実践の中間発表について
シンガポール日本人学校小学部合同研修会について
今年度の研究計画について
- 9 月 20 日(月) 第 1 回校内研修会(15:00～16:30)
- テーマ：「探究科における思考ツールの活用について」
講師：関西大学総合情報学部 黒上晴夫教授
- 9 月 23 日(木) 職員打ち合わせ
- 【連絡】授業実践の中間発表(オンライン)について
- 10 月 4 日(月) 第 4 回校内研究推進委員会(14:50～15:30) ※オンライン在宅学習期間に実施
- 【議題】1～3 年部・特別支援部中間発表に向けて確認
1～3 年部・特別支援部中間発表の進め方について検討
- 10 月 19 日(火) 第 3 回校内研究会全体会(15:40～16:30)
- 【議題】授業実践の中間発表(オンライン)
《4 年部》「自然環境発表会」等
《5 年部》「デリバリーアプリ」「自分たちができる SDGs」等
《6 年部》「卒業プロジェクト」等
- 10 月 25 日(木) 職員打ち合わせ

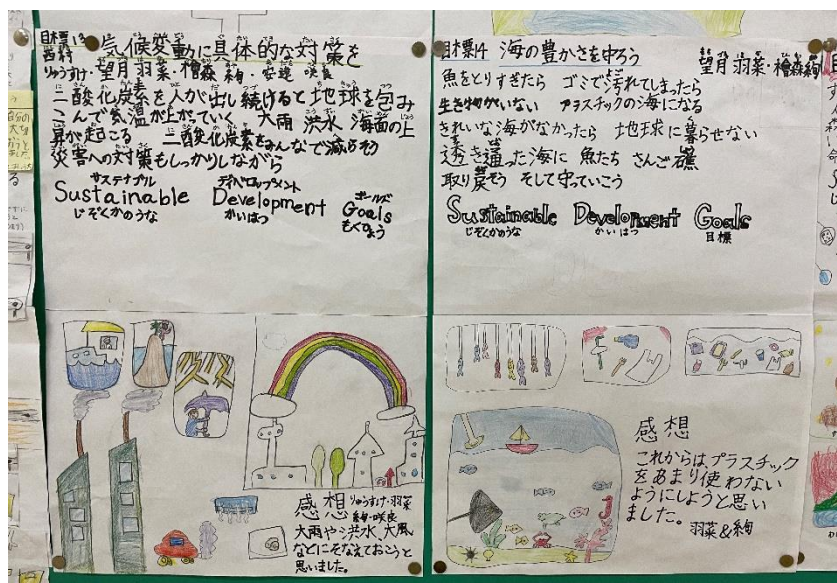
- 【連絡】授業実践の中間発表（オンライン）について
 11月16日(火) 第5回校内研究推進委員会(15:40～16:20)
 【議題】教育課程の振り返り
 三学期の活動について
- 11月22日(月) 第4回校内研究会全体会(15:00～16:10)
 【議題】授業実践の中間発表（オンライン）
 ≪1年部≫「じぶんでできることをしよう」等
 ≪2年部≫「みんなのつかうまちのしせつ」「あきのくらし」等
 ≪3年部≫「すみつづけられるまちづくり」等
 ≪特別支援部≫
 スター1（4年）「デイリーハシモト」等
 スター2（2年）「おもちゃづくり」等
 サンシャイン（2年）「生き物観察」等
- 12月14日(火) 第3回 世界へ発信！！私たちがつくる持続可能な世界～SDGs 発表会～
 主催：蘇州日本人学校中・高部
 会場：蘇州日本人学校他（オンライン授業）
 本校からの出席者：研究主任（1名）
- 1月11日(火) 第6回校内研究推進委員会(15:40～16:20)
 【議題】第5回全体会（実践報告会）について
 SDGs 自己評価用紙の作成について
 SDGs 学習者像の作成について
- 1月20日(木) 臨時校内研究推進委員会(16:00～16:15)
 【議題】SDGs 学習者像の教室掲示物について
- 2月7日(月) 第5回校内研究会全体会(14:50～16:00)
 【議題】各学年部からの実践報告
 2021年度校内研究の総括と連絡

6. 今年度の成果・効果（※詳細に記載し、成果物があれば添付してください）

本研究で目指す授業実践による成果・効果

a. 地理的特性を生かした探究的な学習について

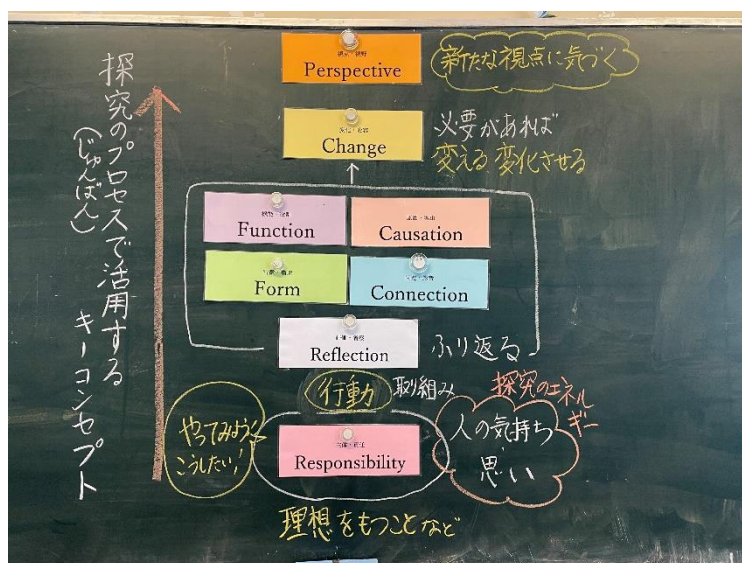
シンガポールという地理的・文化的に特殊な環境においても、日本と同様、「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げる目標に向かい生活を送ることへの意識を各学年の取組によってもつことができた。活動や思考の場面を設定し学びを展開する中で、個、または集団で設定した課題の解決に向けて教師は個別に支援を行ってきた。その支援が成果となって表れた場面が多くあった。子ども自身が学びの価値を自覚し、学んだことを生活に生かそうとする姿が見られた。以下の写真は4年生の取組である。各目標をまずは知り、その中から自分たちの生活につながる取組について考える



きっかけとなった学習の成果物である。このような学びが次の学年での学びにつながり、学校から家庭へと学びの幅が広がっていくのである。

b. IB の要素を取り入れた深まりのある学び

各学年で、特に、キーコンセプトの使い方について共通理解を図った。右は全体で共有したキーコンセプトの「段階的な活用方法」である。下から上へ、キーコンセプトの活用段階があると仮定し、単元を展開する中で、「どのタイミングでキーコンセプトを子どもに提示したらよいか」を教師が意識した。これらを子どもと共有することで、課題解決の際に、子ども自身もどのタイミングで何のキーコンセプトを活用したらよいかを子どもと教師が意識して学習を進めることにつながった。



c. タブレット端末による学習の充実と効果

今年度は昨年度に引き続き、iPad を購入させていただいた。より効果的な活動を学級の全員の児童が行えるように、低学年は英語科や生活科、探究科基礎の学習で活用した。効果的であった事例を以下に挙げる。

【第1学年】英語科Ⅱ「チーフア小学校の友達にクレメンティ校を紹介しよう」

1 iPad 活用の目的

現地校の小学生との交流は、例年、互いの学校に行き来しての交流であるが、今年度は Covid-19 の影響で叶わなかった。そこで、「ぼくたちの学校のことを知ってほしい！」と子どもたちの発案により、動画メッセージを交流することにした。

2 iPad 活用方法 ※6グループ/クラス×6クラスで使用。

- ①紹介したい事柄を決める。
- ②特別教室や屋外のお気に入りの場所に行き、ipad で撮影。
- ③動画の確認、修正案の相談、選定。
- ④airdrop を使用して提出。

3 iPad 活用の効果（子どもの様子）

撮影場所やアングルも自分たちで考え、主体的な活動となった。動画撮影はタイム表示があるので、1年生でも編集の目安にしやすいことが利点である。また、提出後の担任の iPad による一括管理も容易だった。

（児童の感想より）

- ・「クレメンティ校の運動場の広さや、縄跳びのやり方がよく伝わったと思う。」
- ・「ビデオやオンラインで交流する時には、ゆっくり大きな声で話し、ジェスチャーを使うといいと分かった。」
- ・「iPad が使えて楽しかった。」
- ・「自己紹介もできたし、相手の顔も見えて嬉しかった。今度は会ってお話したいな。」



【第2学年 生活科 「つながる広がるわたしの生活（冬の暮らし）」】

1 iPad 活用の目的

生活科「つながる広がるわたしの生活（冬の暮らし）」の学習では、これまでに春、夏、秋の様子や行事について学習してきた。この単位では、日本の冬の行事について学習した。シンガポールにしか住んだことのない児童もいるため、冬の様子や行事を想像することが難しい様子がみられた。動画や写真から日本の冬について学習した後、シンガポールにも冬の行事があるのかを調べる学習をした。

2 iPad 活用方法

シンガポールのお正月である「チャイニーズニューイヤー」について、iPad で調べ学習を進めた。まず、事前に教師が用意したスライドを見ながら、「春節とは何か?」「春節にすること」「春節で食べるもの」などを学習した。その後、自分で調べる事柄を決め、調べ学習を進めていった。



チャイニーズニューイヤーに向けて、校内に英語科の先生方が用意したの飾りがあるが、それらを iPad で写真を撮り、調べ学習をまとめる際に使用した。

3 iPad 活用の効果（子どもの様子）

調べ学習において、自分で検索したり、自ら写真を撮ったりすることで、意欲的に学習を進めることができた。撮影した写真は、教師の iPad へ AirDrop で送り、児童のクロームブックで使えるようにした。初めてタブレットを使用する児童もいたが、すぐに操作の仕方を覚えた。これまでも、写真を撮ったり、動画を作成したりする際に 1 人 1 台の iPad があれば良いと感じていた。 今後は、生活科だけでなく、様々な教科で活用していきたい。



【第3学年 探究科「人の思いがまちをつくる」】

1 iPad 活用の目的

3 年生の探究科では、上記のテーマで学習を進めた。SDGs の目標 11「住み続けられるまちづくり」に関連付けて、シンガポールという国がどのような人の思いによって作られているかを考えた。日本語で書かれた書籍がないため調べ学習もなかなか難しいので、自分の足で見て、そこで撮ってきた写真も重要な資料となった。

2 iPad 活用方法

クレメンティ校には、2 年生以上に 1 人 1 台のクロームブックが設置してあり、普段から授業で有効に活用しているが、一番の難点は写真の撮りにくさです。レンズが内向きにしかないので、画面の外側のものを撮影できず思うような写真を撮れません。iPad であれば、普段から教師が学級通信用の写真撮っているように思ったような写真を気軽に撮影するのに適している。

3 iPad 活用の効果（子どもの様子）

子どもの声

「写真が撮りやすくなってよかった。」

「今まで写真を撮っても余計なものが映っていたら切り抜く必要があったけど、それをしなくていいのは楽」

「いつもこれで撮りたい」

一人一台の端末の活用により、自分の思いで自由に子どもたちが校庭を歩き回ることができ、3年生という発達段階を考慮しても、大変効果的な学習を展開することができた。そして互いの撮った写真を教室で共有することも容易で、多くの場面で子どもたち同士の気付きを広げられそうである。今後もシンガポールならではの自然や生き物など多くの発見を子どもたち同士で共有していきたい。



【第4学年 国語科 「学習を広げよう ～クレメンティ校の自然をしょうかいしよう～」】

1 iPad 活用の目的

本単元は、4年生の国語科で学習した「季節の言葉」「短歌・俳句に親しもう」の単元のまとめとして設定したものである。「季節の言葉」では、春夏秋冬それぞれの季節を代表する行事や植物について学習し、「短歌・俳句に親しもう」では、短歌や俳句を音読したり暗唱したりする活動を通して、言葉の響きやリズムに親しんできた。

今回は、「クレメンティ校の自然をしょうかいしよう」をめあてに設定し、クレメンティ校の自然を iPad で撮影し、撮影した写真と共に、その魅力を俳句にして伝えることにした。



2 iPad 活用方法

iPad を一人一台持ち、校庭を中心に撮影したい自然を見つけ、写真を撮った。

また、撮影したものに対して、必要な部分のみ切り取ったり、暗くて見えにくいときは彩度を上げて明るくしたりと自分で編集する児童もいた。

3 iPad 活用の効果（子どもの様子）

児童に尋ねたところ、普段の生活で iPad や iPhone を使う機会が多いことが分かった。学校内では、普段 chromebook を使用しているが、カメラが内側にしかなく、撮影範囲が限られていたり、操作の難しさを感じたりすることがよくあった。一方で、iPad は多くの児童が普段から操作に慣れている点、撮影後の編集がしやすい点などを考えても、とても有効に活用できたと感じる。

今回は写真撮影のみに使用したが、今後は、動画を編集したり、違うアプリを活用したりと、幅を広げていきたいと考えている。今後も更なる使用機会と活用方法の検討をしていきたい。

【第5学年 探究科「SJS 小学部 フリド・ツプ」】

1 iPad 活用の目的

シンガポール日本人学校のめざす子ども像にある「世界の人々とつながろうとする子」に迫るための手立ての一つとして設定した単元である。その目的を達成すべく、レゴ EV3 を活用したロボットコンテストとカップスでの交流をととして、同じ日本人学校の同学年の友だちとつながろうとする気持ちを育てていく。本活動では、他者と協同してプログラムを作り上げたり、発表をしたりする学習活動を重視する中で、iPad をはじめとして様々なデバイスを活用し、情報を整理して伝える活動を通して、持続可能な開発のための新たな人材の育成をねらいとしている。

【本単元の概要】

シンガポール日本人学校小学部交流の2年計画の中の1年目と考え、両校の5年生全員で楽しめる交流が本企画である。シンガポールにおけるコロナウィルス予防対策の観点から、昨年度に引き続き今年度もオンライン（Google Meet）で交流できる活動とした。具体的には、クレメンティ校においては日頃より探究科基礎の学習で積み重ねてきたプログラミングの知識と経験を活かしながら、レゴ EV3 を活用したロボットコンテストを開催する。コンテストでは、事前にレゴ EV3 を動かすプログラムを作っておき、本番でレゴ EV3 が動いている様子を iPad で撮影したものを画面共有し、発表を双方で鑑賞する。チャンギ校においては、カップを使ってリズムをとるカップスを披露し、教える活動をする中で両校の交流を図る。

2 iPad 活用方法

レゴ EV3 を動かすプログラムを作り、レゴ EV3 が動いている様子を撮影する際に、iPad を使用する。また、撮影したものに対して、必要な部分のみ切り取る、追加して情報を載せる等編集を行う。

使用したアプリ ○カメラ (OiMovie)

3 iPad 活用の効果（子どもの様子）

普段使用している chromebook では内カメラしかなく、撮影に制限がかかってしまうことや、操作に難しさが残ることがあった。一方で、より容易に操作でき、その後の編集もすることが可能な iPad は活用方法に幅があり、今回の単元の目標達成においては、より適したツールであった。

本交流で大切にしたいことは、子ども自身の「相手と繋がりたい」という思いであった。その意欲を重視した時に、今回の iPad 活用において、撮影が容易であることや活用のしやすさから、自分達の成果を分かりやすく、そしてより見やすく自信をもって届けることができたようだ。児童自身の感想からも、また、活動から見た笑顔多い様子から感じている。

使い方も容易であり、どの子にとっても抵抗なく、すぐに活用できたことは、教師側としても積極的にツールを使っていきたいという思いになっている。今後も更なる使用機会と活用方法の検討をしていきたい。



【第6学年 探究科「わたしたちにできるSDGs～理想を実現するために～」】

1 iPad 活用目的

第6学年の探究科基礎では、自分たちの理想の学級、学年を目指して、友だちと試行錯誤を繰り返しながら課題の解決に取り組んできた。その子どもたちが、理想の「学校」を目指し、2学期後半から3学期にかけて、遊びの紹介動画を作成して全校の子どもたちと遊ぶ時間を設定した。コロナ禍の中で、「全校の子どもたちを楽しませたい!」「全校のみんなを笑顔にしたい!」「6年生としてコロナの中でもみんなを元気にしたい!」そのような思いをもって、この単元を展開してきた。このような学習過程で、iPadの活用が「動画の編集や写真や動画の撮影に班の全員が関わりたい」という子どもの思いに応えるものとなった。以下に、活用方法と効果について述べる。

2 iPad 活用方法

動画を撮り、それらを編集し、遊び紹介動画として、グループに分かれて活動した。グループの中で写真や動画を撮る役割、編集する役割、構成を考える役割と、グループの全員がiPadを活用して活動に参加できるように、工夫して学習を進めていた。



3 iPad 活用の効果（子どもの様子）

効果的な場面はいくつかあるが、最も効果を感じたのは、全員がiPadを使用できたことである。二人に一台ではなく、一人一台使用することで、一つの作業に全員が携われる。シンガポールの国の厳しい規制により、活動に人数制限もある中で、他学年との交流も一度も行えていなかった。しかし、交流する機会をあきらめるのではなく、「なんとかして6年生としての姿を見てほしい」「一緒に楽しみたい」という思いが子どもたちにあった。

シンガポール日本人学校の置かれた状況下で、このような端末が学級全員にあり、活用することで、一つの作業をみんなで見合い、意見を出し合い、進めていくので、コミュニケーションが活発になり、班の全員が自己有用感をもって、学習を進めていくことができたのである。

動画編集後、1～5年生までにオンラインで教室と教室をつなぎ、動画で遊びを紹介したり一緒に遊んだりすることができた。交流できた学年からは、ありがとうの言葉や手紙をもらい、子どもたちは表情は達成感に満ちていた。iPadの活用が班の友だちだけではなく、他学年の子たちとのつながりを生み出した。

このように、各学年で、子どもたちの主体性の高まりや学びの連続性が見られた。そして何よりも一人一台の端末があることにより、自分の思いを端末上で表現し、それらを共有し新たな気づきや考えを生み出すきっかけになった。今後も引き続き、活用していきたい。



d. 学習の価値を感じるための書籍の利用

第6学年の探究科基礎では、学んだことが「自己の生き方」につながるものであってほしい。そこで、自分たちの学びの過程を振り返った後、課題解決を目指してきた学びが、いかにSDGsとつながっているのかを感じられるよう、自分のできることで社会を変えようと日々努めている方々の思いを載せた書籍を購入させていただき、単元の振り返りに活用した。

子どもの振り返りには、「自分たちは世界のすごい人たちと似た思いをもってやっていたのだと気付いた」

「理想の学級、学年、学校を目指してきたが、SDGsに貢献する世界の人たちも、自分の理想の世界の実現に向けて努力してきたことが分かった」など、自分の活動と比較し、それらをもとに思いを強化したり新たな考えや気付きを生んだりすることにつながったことが分かる振り返りがあった。

書籍の活用は、調べ学習に活用することが多いが、本単元の終末に活用することで、自分たちの進めてきた取組は、SDGsを目指した取組に実はつながっていたのだと、気付くことのできた貴重な機会になった。



7. まとめ

校内研究の研究主題については、IBの要素とオンラインによる在宅学習を生かした実践を積み重ねることができたように思う。実施計画については、教頭先生、教務主任、昨年度の研究主任と協力して、昨年度2年計画で作成したうちの2年目の計画を作成することができた。

授業実践の計画案については、全学年が研究主題に基づいた計画案を作成して報告し、全教職員で内容を共有することができた。中間報告については、グループ別にディスカッションを行うことで、活発に意見が出された。最後に全体で集まる場を設け、全教職員が各グループで出された意見を共有することができた。

他教科との連携案作成については、教科別年間指導計画一覧表に記載されている各教科の単元名の中から該当する学年のセントラルアイディアに関連しそうなものを選定し、凡例を設けて着色することで、次年度の学年に引き継ぐことができた³⁾。

研修会については、オンライン上で開智望小学校の五木田先生を講師に招き、IBに関する研修会を行った。先進校の実践を知り、さらに質問に答えてもらうことで、教職員のIBに関する理解が深まったように感じる。また、オンラインでの実施に対する謝礼金の受け渡し方法を、事務局およびチャング校と相談しながら決めることができた。

授業実践共有週間については、大がかりなものでなく、日常の指導を簡潔に書いたものをボックスに入れてもらうようにした。用紙を小さくすることで作成する側の負担も減り、見る側も気楽に他学年の取り組みを感じることができたと思う。研究図書については、AG5担当、図書担当と協力して購入し、教職員が自由に借りられるようにできた。

キーコンセプトについては、ローカル校における英字の掲示物も含め、先進校における実践を共有させることができた⁴⁾。そして、色を決めて教室に掲示したり、普段の学習や生活の中でも使えることを朝会で紹介したりした。身近にある考え方だということ子ども以上に教師自身（一年目の教職員）が感じることができたと思う。また、中間報告などの場をとおして、学年別の使用実践例を共有させることができた（表1）。

オンライン授業については、探究科としては校外学習の代替措置、グループディスカッション、オンライン交流のシミュレーションが効果的だった。校外学習の代替措置として、事前に現地で動画を撮影してから配信する案と、生配信を行う案が考えられた。

研究推進委員会からは、「子どもたちにキーコンセプトが定着しつつあるので、来年度も系統性をもって取り組ませたい。」「セントラルアイディアは他教科との連携もふまえ、流れとしてよかった。」「校内研究の成果が先生方の作成した二学期の所見に表れていた。」との意見が出された。

この度、活用させていただいたタブレット端末や書籍についても、子どもたちの効果的な学習に活用することができ、子どもの成長や変容につながった。来年度からも、シンガポールならではの学習や子どもが学び合える環境整備に活用していきたい。

8. 次年度の計画

ESD と IB の要素については、来年度以降、過去 2 年間で積み上げた実践を継続して行うのか、または研究に位置付けてさらに発展させていくのか、全体で共通理解をしていく必要がある。入れ替わりが激しい学校なので、ここまで積み上げたものがなくなってしまうのはさみしい。特に SDGs については、さらに実践を積み重ねる必要があるように感じている。「2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標」ということもあり、校内でも数年は取り組んでもよいのではないだろうか⁵⁾。

セントラルアイディアについては、児童に全種類を経験させる目的から、本校では最低でも 4 年間はこの取り組みを継続させる必要があると考える。系統性の観点からも、今後も 3 年生以上で探究科部会が設定したものを使用することが望ましい。ただし、児童が学習しやすいよう、文言の抽象度に留意しつつ、細部は毎年設定しなおしてもよい。また、年間指導計画一覧表に記載されている各教科の単元名の部分に該当学年のセントラルアイディアを明記することで、教師がセントラルアイディアを意識しながら各教科の授業を計画しやすくなるのではないかと考えられる。さらに、教室以外の場所に積極的に掲示できるとよい。評価の扱いについても検討していく必要がある。

キーコンセプトについては、児童に全種類を経験させる目的から、本校では最低でも 6 年間はこの取り組みを継続させる必要があると考える。来年度も学年に応じて児童が理解しやすい和訳文を作成し、表示することが望ましい。その際には、教室以外の場所にも積極的に掲示できるとよいのではないだろうか。ただし、特別支援学級では、児童の実態に応じて掲示の量を調整する必要がある。授業内での使用方法については、さらに検討を重ね、全教職員で共通理解を深めていく必要がある。児童が授業や学校生活の場面で、主体的に活用できるようにしていきたい。また、単元や校外学習ごとに使用するキーコンセプトを事前に設定しておくことが望ましい。評価の扱いについても検討していく必要がある。

オンライン授業については、探究科のオンライン授業はさらにバリエーションを増やせないか検討を重ねる必要がある。

探究科部会からは、IB の要素について、「子どもたちに意識させる意味でも、IB の目指す学習者像を掲示してはどうか。」「探究科でも振り返りカードのようなものを作成しておき、子どもたちが自分で評価項目を作り、自己評価ができるようにしていってほしいのではないか。」との意見が出された。

研究推進委員会からは、「来年度の研究として、SDGs も 1 つの案。」「1 年目の先生方の理解度を考えると、今年度の校内研究の内容を来年度も継続したほうがよいのではないか。」「探究科の評

価方法も含め、評価について校内研究で扱ってもよいのではないか。」「探究科の評価項目について、単元ごとに具体的に考えていく必要がある。」「子どもたちが具体的な視点をもって学習するために、セントラルアイディアを単元ごとに作ってはどうか。」との意見が出された。

9. 所感

以上をふまえ、来年度も探究科の学習で、SDGs、セントラルアイディア、キーコンセプト、オンライン学習を継続したい。また、セントラルアイディアの文言とキーコンセプトの和訳については、今年度再検討したものを来年度に引き継ぎ、新年度が始まったら新担任がアップデートできるようにしたい。今年度もコロナ対策により、多くの取組ができない中、研究を進め、来年度や来年度以降につながる成果物を残すことができたので、確実に来年度へ引き継いでいきたい。

※記入欄は適宜拡張してください。